

東京天台

http://www.tendaitokyo.jp/

平成二十八年
春彼岸号

発行所
天台宗東京教区
杜多徳雄
〒107-0062 東京都港区南青山1-3-22
TEL.03-5785-3481



惠心僧都 源信(延暦寺蔵)

中国で天台宗を開かれた天台大師は、さまざまな修行法を整える中で阿弥陀仏

極楽往生を求めて

中国で天台宗を開かれた天台大師は、さまざまな修行法を整える中で阿弥陀仏を始めます。

『往生要集』ではまず地獄の光景が詳しく説かれ、続いて対照的に極楽を描

(2頁へ続く)

源信は現在の奈良県で信心深い母のもとに生まれました。幼い頃から母や姉に伴われて当麻寺に詣で、極楽浄土の世界を絵にした「当麻曼荼羅」に親しんだと言われています。

母の願い

今年の6月10日は「念仏の人」と称される源信没後一千年の御遠忌にあたり、源信は比叡山横川の恵心院に住んだことから「恵心僧都」とも呼ばれ、「日本浄土教の祖」と言われています。

念仏の人 「恵心僧都」源信について

若くして出家した源信は慈恵大師良源(元三大師)に師事します。良源は大いなる荒れ果てた比叡山を学問と修行の両面で復興したことから「比叡山中興の祖」と呼ばれ、その弟子は三千人とも言われています。その中から源信は十五歳で浄土經典の講義を行うなど、新進気鋭の学問僧としてエリート街道を進んだのです。



比叡山横川・恵心院



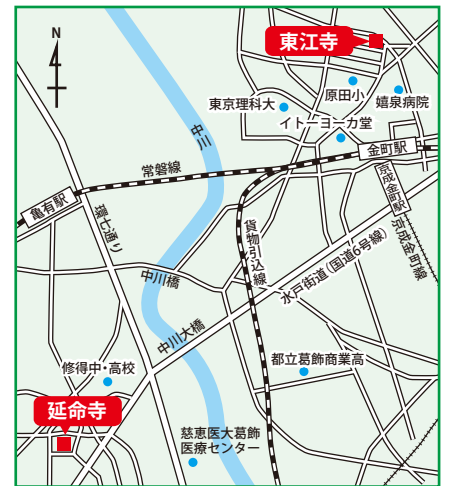
東江寺 幼稚園庭から望む本堂

東江寺は、観心年間(1350〜52)、近江国三井寺の大僧都源慶法印により下総国葛飾郡小梅(現・墨田区向島)にあった三圃稲荷(現・三圃神社)の傍らに草創された。山号の「三圃山」は三圃稲荷が由来と

三圃山 延命寺

当寺は、観心年間(1350〜52)、近江国三井寺の大僧都源慶法印により下総国葛飾郡小梅(現・墨田区向島)にあった三圃稲荷(現・三圃神社)の傍らに草創された。山号の「三圃山」は三圃稲荷が由来と

近年は、「生きていくうちに」お寺に足を運ぼう」を合言葉に檀徒向け行事に趣向を凝らし、ユニークな園舎の幼稚園を併設する地域に開かれたお寺として親しまれている。



なっており、草創の後、明治初期まで三圃稲荷の別当寺をとめた。後に浅草寺の末寺となった当寺は、元禄六(1693)年に境内が御用地となったため本所中之郷(現・墨田区吾妻橋)に移った。

当寺は、錦糸町を浅草と並ぶ繁華街とすべく、浅草寺に倣って観世音菩薩の勧請を依頼した(株)江東楽天地(現・東京楽天地)が、清昌稲荷大神の御神託を受け得度した椋原妙昌尼を迎え、妙昌尼が修行した

江東親世音 江東寺



延命寺 本尊延命地藏半跏像



江東寺 本堂

群馬水澤親音の別院として昭和十五年に江東楽天地(現・江東橋四丁目)に建立された。東京大空襲で被災するも翌年再建され、昭和二十四年の区画整理で現在地に移る。



去る12月14日、第二百五十六世天台座主半田孝淳(かくしん)院下が、大津市赤十字病院にてご遷化された。世寿九十九歳。ご法名は「叡樂心院天台座主探題大僧正孝淳大和尚」。

半田院下は、大正6年9月21日に長野県上田市別所でお生まれになり、北向観音で知られる名利・常樂寺のご住職を務められた。天台宗宗議会議員を経て天台宗参務(教学部長)、天台宗宗機顧問

半田座主院下ご遷化

会長をご歴任。京都五箇室門跡の一つ曼殊院門跡門主を務められた後、平成19年2月1日、第二百五十五世渡邊惠進天台座主院下のご譲職を受け、同日第二百五十六世天台座主にご上任された。

宗外においても宗教サミット等で要職をご歴任された半田院下は、天台宗きつての国際派と知られ、比叡山での宗教サミット開催のためにローマ教皇に謁見するなど、世界の宗教指導者と幾度となく会談を重ね、その実現にご尽力された。また院下は、世界の宗教指導者とともに世界平和、核兵器廃絶を訴えられた。

平成21年に



恵心僧都墓所「恵心廟」

きます。こうして浄土に行きたいと思わせた上で、なぜ極楽がよいのか、どのように修行すればよいのかなど、順を追って念仏の利益を説いてゆくの。ただし、源信は「南無阿彌陀仏」と唱えることだけを念仏と考えてはいません。初心者のために、阿彌陀仏の姿をよくよく見ることを修行の中心と捉え、さらに天台宗で重視する『法華経』の教えに包まれた念仏であることを出発点としたのです。

指導者としての源信

一般に「念仏の人」と称される源信は浄土教の著作が目まぐるしく、天台の教学は言うに及ばず、他宗の教学にも精通した超一流の学僧でした。天台宗で解釈が分かれる学問の内容をまとめたものや『往生要集』を中国に送り、中国天台宗の意見を聞くなどしています。

念仏の奥底に『法華経』のこころを置いたように、源信は伝統的な天台宗の教えを守りながら自身の考えを深めました。つまり源信は当時の天台宗そのものをリードした人物であったと言えるのです。

「現代社会と仏教」 〜イチハヤク〜

皆さんは、189という電話番号をご存知だろうか。語呂合わせは「イチハヤク」で、児童虐待が疑われる時は「いち早く」児童相談所に通報することを呼びかけている。

こうした通報ダイヤルが出来てしまうことが悲しい。その背景には虐待の相談件数の飛躍的な増加がある。厚生労働省の統計によれば、平成9年には約五万件であった相談件数が、平成22年には約五万件となつている。何と10年余りで10倍近く増加したというのだ。それから5年以上が経過した現在も、もつと増えているのかも知れない。年末の一斉托鉢に寄せられた善意の募金を毎年寄託している児童養護施設の職員の方にかがうと、現在の入所児童の大半は実の親による虐待を受けており、親が蒸発したとか、刑務所に入ったとかいうようなケースは、今ももうほとんどないそうである。

本号で紹介した恵心僧都源信の『往生要集』にも、極楽浄土の樂について「慈悲、心に薰じて、互いに一子のごとし」(お互いのことをまるで一人子のように慈しみあう)と

あるように、親から子へとそそがれる無償の愛は仏教の慈悲と同様のものと見られている。もちろん親も子に手を挙げてしまうことがないわけではないが、如何なる事情があるにせよ、継続的に親から子へ虐待が続けられるというのは信じたくない話である。しかも、児童虐待の場合、加害者である実の親を厳罰に処したとしても、必ずしも被害者である子供が救われるわけではないことが問題を難しくする。だからこそ虐待が深刻度を増す前に「イチハヤク」解決の糸口を見いだすことが大切になるであろう。

いつの世でも、ヨソさまのことに口をはさむようなことは憚られるものだ。だが、ヨソさまの子供でも、子供は子供である。釈尊のように「衆生はことごとくこれ吾が子なり」(『法華経』譬喻品)とまではいかないまでも、周囲の大人の目で子供たちを見守っていきたいものである。そうした慈悲の実践として、虐待通報の「イチハヤク」も考えたい。



は、天台座主として初めて高野山真言宗金剛峯寺を公式訪問し、弘法大師降誕会法要にご参列された。

また東日本大震災の折には、いち早く被災地に赴き、犠牲者慰霊ならびに復興祈願法要の大導師を勤められた。

温かなお人柄の院下は「半田スマイル」と呼ばれた笑顔で多くの人々に接してこられた。平和を愛し、和顔愛語

の信条そのままに生きられたお姿が偲ばれる。

合掌

托鉢報告

平成27年12月12日(土)、浅草寺境内において恒例の全国一斉托鉢を行いました。皆様より頂戴しました浄財は下記の通り、ご寄附をさせて頂きました。

【寄附先】	地球救援事務局	150,000円
	あしなが育英会	150,000円
	港区社会福祉協議会	61,403円

ご協力ありがとうございました。

第46回
一隅を照らす運動
東京大会

平成28年6月23日(木) 午後1時 開会
浅草公会堂

第1部 法要
導師: 輪王寺門跡門主 神田秀順大僧正
天台宗東京教区寺院 天台声明音律研究会
天台雅楽会 叡山講福聚教会

第2部 講演
「比叡山の修行と伝教大師の御心」
講師 比叡山門龍院住職 比叡山居士林所長 宮本 豊貴(みやもと とほぐ) 師

プロフィール:
昭和35年 北海道室蘭市で生まれる。昭和59年 比叡山にて出家得度した後、昭和63年に叡山学院・仏教大学卒業を経て、平成元年から比叡山十二年籠山行に入門。その後、平成6年に延暦寺一山門龍院住職拜命。好相行を満行後、平成9年に宗祖伝教大師最澄の御廟所、浄土院で戦後六人目の侍真僧(じしんそう)となる。平成13年 十二年籠山行満行。引き続き籠山を行い、平成21年 二十年に亘る籠山を終了して下山。平成21年 延暦寺大黒堂執事を経て、現在は比叡山居士林(在家の修行道場)の所長として、主に企業の新入社員の研修指導を行う。
主な著書 『覚悟の力』致知出版